

平成28年度大学コンソーシアムやまがた第2回幹事会議事録

日時：平成29年3月9日（木）13：30～14：54

場所：ゆうキャンパス・ステーション及びテレビ会議

出席者：委員長 安田 弘法（山形大学）

副委員長 川崎 正則（保健医療大学）

井上 元治（米沢栄養大学・米沢女子短期大学）

→代理 長岡 美佐保

委員 田中 浩（鶴岡工業高等専門学校）

神田 直弥（東北公益文科大学）

→代理 スルトノフ・ミルゾサイド

藤原 茂樹（放送大学山形学習センター）

→代理 鈴木 直克

松田 芳徳（産業技術短期大学校・山形校）

五十嵐文彦（農林大学校）→代理 廣野 直芳

菅原 邦生（山形工科短期大学校）

栗山 恭直（企画会議委員長／山形大学）

欠席者：副委員長 遠藤 節子（東北芸術工科大学）

大川 健嗣（東北文教大学）

委員 柏倉 弘和（羽陽学園短期大学）

遠藤 隆弘（山形県）

田畑 信二（産業技術短期大学校・庄内校）

説明者：滝澤 匡（山形大学准教授）

陪席者：松岡 真紀（山形県総務部学事文書課・高等教育担当主事）

武田 仁志（山形大学教育・学生支援部学務課長）

事務局：齋藤幸太郎、西田 靖子

会議に先立ち、事務局から代理出席者、報告事項の説明者、陪席者の紹介、過半数委員の出席による会議成立の報告及び席上配布資料について説明があった。

議題

委員長から、前回（平成28年6月8日）開催議事録の報告と今回の議事録署名人に山形工科短期大学校の菅原委員及び山形大学の栗山委員の二人へ依頼があった。

【報告事項】

1 山形人材育成委員会の平成28年度活動報告について

山形大学滝澤准教授から資料1の平成28年度山形人材育成委員会事業報告書及び

資料1別紙1の「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」に基づき、平成28年度に行った活動内容と4年半にわたり実施してきた社会人力育成山形講座の成果について報告があった。

また、この報告について以下の質疑応答があった。

(主な質疑応答の内容)

・説明の中で、受講前と受講後では20%程度山形志向が高まるということであったが、これまでは何が障害となって山形志向が高まらなかったのか、逆に見えてきた部分というものがあれば、教えていただきたい。(菅原委員)

→これまで高まらなかった理由は、直接(データを)取っていないのでわからない。ただ、これまでは(学生が)地域に出る機会がほとんどなかったためと思われる。多くの学生のコメントによれば、山形県出身者であっても山形のことを全然知らなかった。こんなに面白いところがあることを気づかなかった。これからは誇りをもっていきたい。と前向きな意見を述べてくれる学生もいたので、まずは授業をきっかけに外に出る、地域の現状に触れる、というところが大きなきっかけになったのではないと思われる。(滝澤准教授)

・そうすると人と人との交流により、地域志向が高まるということか。(菅原委員)

→そうであると思われる。地域の方だけでなく、企業の方からも外部講師として来てもらったが、(学生は)素晴らしい企業の方が近くにいることすら知らなかったので、今まで首都圏の大企業ばかり選択肢として考えていたが、地元で頑張れる企業があるのであれば、就職先の選択肢を少し変えるといった話もあったので、きっかけになったと思われる。(滝澤准教授)

以上

【協議事項】

1 山形人材育成委員会について

委員長から、山形人材育成委員会について、これまで行われてきた「大学間連携共同教育推進事業」がこの3月で終了することから、3月22日に開催の山形人材育成委員会・総会をもって解散となる旨の説明があり、了承された。

また、委員長から、長年の実施・協力に対する謝辞があった。

2 平成28年度事業報告(案)及び収支補正予算並びに収支決算見込額(案)について

事務局から、平成28年度事業報告(案)について資料2に基づき説明があった。その後菅原委員から、企画・実施した高等教育職業フォーラムについて、思うように人数が集まらなかったことへの反省と協力に対する謝意があり、平成28年度事業報告(案)について、了承された。

続いて、事務局から平成28年度収支補正予算並びに収支決算見込額(案)について説明があり、了承された。

(特に意見はなし)

3 平成29年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

事務局から、事業計画（案）について資料4及び資料4別紙1に基づき説明があり、次いで委員長から、前年度と同じ事業を行うものや新規に「山形講座フォローアップ事業」、「事業評価」を行うこと、および、山形人材育成委員会関連事業がなくなることなどが平成28年度事業計画との違いである旨の補足説明があった。

このことについて、以下の意見交換等があった。

（主な意見交換等の内容）

○平成29年度事業にビブリオバトルがなくなったことについて

・最近の読売新聞に、高校のビブリオバトルの全国開催のことが載っており、山形県だけがなかった。それでも山形県の高校が上の大会に聞くような記事であったので、高校から大学につながるような点を考慮して開催してもいいのかなと考えている。（栗山委員）
→（山形大学が）開催しないということではなく、他大学の学生の参加がなく山形大学の学生のみ参加となっており、かつ大学単独の事業となっているため、本コンソーシアムの趣旨にはなじまないのので、今回は平成29年度の補助金が伴う共催事業としては行わないことにするというものです。（事務局）

○山形講座フォローアップ事業について

・文部科学省の継続事業として「共同教育FD事業」があげられているが、「つばさ（FDネットワークつばさプロジェクト）」とも重なっているのではないかと思われる。全く目的が違ったFDをやるのか、機関の負担にならないように整理して実施してほしい。（栗山委員）

また、委員長から資料4別紙2について、平成29年度事業計画書（素案）を事業評価委員に事前に見てもらい意見を聴取した結果、一人の委員から意見をもらったもので、特に連携事業についての取り組みを検討するようにとの意見である。この点については、平成29年度は事業評価を行ってもらうことになっているので、その中で併せて評価いただき、平成30年度の事業計画に反映させていくこととしたい旨の話があった。

以上の結果、平成29年度事業計画（案）は承認された。

事務局から資料5の平成29年度機関負担金（会費）、資料6の平成29年度ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金及び資料7の平成29年度大学コンソーシアムやまがた収支予算書（案）について説明があった。

次いで委員長から、平成28年度と比較して、収入に関しては受託事業収入がなくなったこと、支出に関しては大学間連携共同教育推進事業がなくなり、山形講座フォローアップ事業を新たに立ち上げることになっている旨の補足説明があり、以下の質疑応答等があった。

（質疑応答等の内容）

- ・資料5の機関負担金（会費）について、山形工科短期大学校は収容定員30人と他機関に比べ非常に小さい学校であるので機関割の額でも負担が大きいと感じている。すぐにではなくとも構わないが機関割、収容定員割の額の見直しをぜひ検討願いたい。（菅原委員）
- 負担金に関する検討は幹事会マターであるが、事業評価においてもこの件を評価いただき対応していきたい。（事務局）
- ・（資料7の収支予算案）高等教育山形宣言プロジェクトで、例年同じところから申請があり、ほぼ採択されていたが、平成29年度は2件に絞るとなるとどのような方法で採択していくことになるのか。（栗山委員）
- 申請期間を設けて募集をし、数を超えたら企画会議で決めていただきたいと考えている。（事務局）
- ・その場合、（申請内容が）新しいものと既存のものとは中身が違う、既存のものだと実績があるので判断しやすいが、新しいものの判断についてどのような基準で選ぶか難しいと思う。繰越金（予備費）を使用して従前の件数とできないか。また、1件10万の4件40万とする方法もあるのではないか。学生が行動することに教育して成長することが本事業の目指すところなので検討願えないか。（栗山委員）
- 予備費は、ゆうキャンパス・ステーションが将来移転するときの費用などに充てたいと考えているものである。また、先ほど先生の話にもあったように15万円を10万円にするなどして対応することも考えられる。（委員長）
- 予備費は昨年より少なくとっており、この額を残したいと考えている。これを除く予算の範囲内でやりくりを考えたい。先ほどから出ているように15万円を10万円にして3件にするなどの案は対応可能と思われる。（事務局）
- ・企画会議委員長である栗山先生に、平成29年度は30万円の枠で何とか実施していただくようお願いしたい。（委員長）

以上の結果から、平成29年度収支予算（案）は承認された。

4 「高等教育山形宣言プロジェクト」支援助成金交付要綱（案）について

事務局から、従来毎年その年度のみの要綱（案）として、幹事会で承認を得ていたものであるが、昨年幹事会において、委員長から継続して使用できる要綱に直すように指示があり、今回資料8に示す修正案を作成した旨の説明があり、本案件について承認された。

【その他】

1 単位互換協定の加入について

事務局から、平成22年3月26日の幹事会で承認された東北文教大学の単位互換協定への加入について、加盟機関へその通知文が送付されていないことがわかったため、本

会議で、再度承認されている旨の確認を行いたいとの説明があり、了承された。

2 ゆうキャンパス・ステーションについて

事務局から、ゆうキャンパス・ステーションを県から生涯学習センター（遊学館）へ移してはどうかとの情報提供があったことについて、以下の経過報告があった。

（報告内容）

- ・ 6月28日の総会で「県の提案に沿って（移転の）意思表示をしておき、最終的に負担金があまり変わらないようであれば移転はしないことで対応したい、また、県から負担金を低くしてもらえることを見越して本コンソーシアムは設計から参加したい旨の提案があり、了承された。」とされ、その後会長のご指示で県教育庁文化財・生涯学習課へ前向きに考えたいと回答した。
- ・ 8月末に県から以下の連絡があった。
 - ・ 平成28年9月末 設計者と契約締結
 - ・ 平成29年1月末 基本設計完了
 - ・ " 9月末 実施設計完了
 - ・ 平成29年度中 施設改修工事着手（開館しながらの工事を想定）
 - ・ 平成31年度中 リニューアルオープンと、改修スケジュール概要が示された。
- ・ 今年1月31日に設計業者を交えた基本設計の話し合いの場に参加し、その時に県から以下の提案場所2か所の説明があった。
 - 案1 2階第4研修室（約35㎡）を事務室に、第5研修室（約85㎡）を研修室にとの案。
 - 案2 3階特別会議室としていたところを改修して約30㎡の事務室と114㎡の研修室を設ける。
- ・ 2月23日に私が生涯学習センターへ現状の視察に行ってきたが、導線としては、2階が非常に入りやすく、中も明るい印象であり、使いがってもよさそうな印象を受けた。逆に3階は少し奥に配置されていることもあり、来訪者は少し入りづらい印象を受けた。

貸借料は、まだ未定であるが2階を使用した場合の県の試算では年額81万円、3階使用の試算では年額110万円程度とのこと、これに別途光熱水料が必要になる。

なお、県教育庁からは、できれば2階を使用願いたい旨の要望があった。

以上

【配付資料】

- 資料 No. なし ・ 幹事会委員名簿
- ・ 大学コンソーシアムやまがた会則
 - ・ 平成28年度大学コンソーシアムやまがた第1回幹事会議事録
(平成28年6月8日開催)
- 資料1 平成28年度山形人材育成委員会事業報告書(平成29年2月28日現在)
- (別紙1) 美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開
- 資料2 平成28年度大学コンソーシアムやまがた事業報告書(案)
- (平成29年3月1日現在)
- 資料3 平成28年度大学コンソーシアムやまがた収支補正予算並びに収支決算見込額(案)(平成29年2月28日現在)
- (参考1) 平成28年度大学コンソーシアムやまがた機関負担金収支決算書(案)
- (参考2) 平成28年度大学コンソーシアムやまがたゆうキャンパス・ステーション運営費収支決算書(案)
- (参考3) 平成28年度山形人材育成委員会収支決算書(案)
- 資料4 平成29年度大学コンソーシアムやまがた事業計画書(案)
- (別紙1) 山形講座に関する平成29年度以降の継続事業等について(案)
- (別紙2) 平成29年度事業計画書(素案)に対する意見について
- 資料5 平成29年度機関負担金(会費)(案)
- 資料6 平成29年度ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金(案)
- 資料7 平成29年度大学コンソーシアムやまがた収支予算書(案)
- (参考1) 平成29年度大学コンソーシアムやまがた機関負担金収支予算書(案)
- (参考2) 平成29年度大学コンソーシアムやまがたゆうキャンパス・ステーション運営費収支予算書(案)
- 資料8 「高等教育山形宣言プロジェクト」支援助成金交付要綱(案)
- 資料9 単位互換協定の加入について
- 席上配布 山形県生涯学習センター(遊学館)平面図

議事録署名人

山形大学理事・副学長

安田弘法



山形工科短期大学校
准教授

菅原邦生



山形大学
教授

栗山恭直

